

いのち支える浅川町自殺対策行動計画

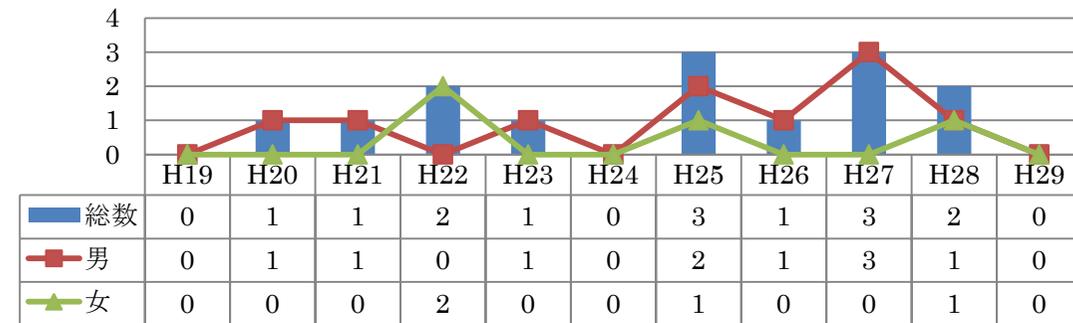
浅川町の自殺率は増減を繰り返しており、中長期的には減少傾向にあります。

町では、既存の事業を最大限活用した部署横断的な支援体制の構築を図り、また町民一人ひとりがこころの健康づくりの大切さを意識し、自分自身の問題のみならず、町全体の問題としてお互いに支え合っていく仕組みづくりをするため、各関係機関や団体と連携しながら、総合的な自殺対策の推進を目指しています。

自殺対策は「生きることの包括的な支援」であり、それは地域づくりそのもので、誰しもが自殺に追い込まれることのない地域を目指すためには、町民を中心に様々な機関とのネットワークづくりが必要となります。町民一人ひとりとのつながりを大切にしながら、こころも体も健やかな浅川町を目指していきたいと考えています。

○浅川町の男女別自殺者の推移（H19～H29）

平成25年から平成29年までの死亡総数は9人で、年によりバラツキがありますが、死亡者数は男性が7人で女性は2人となっています。そのうち60歳以上が4人、20～39歳が2名でした。



○自殺率の目標値

平成31年からの5年間で、平均自殺死亡率を30%以上減少させることを目標とします。

	期間(5年間)	平均自殺率
現状値(%)	H23～H27	23.9
目標値(%)	H31から5年間	16.7

計画策定にあたり、小中学生や高校生、20歳以上の成人に対し、心の健康に関連する現状・相談先等のアンケートを実施しました。保健、医療、福祉、教育、労働その他の関連施策との有機的な連携が図られるよう、基本施策・重点施策・生きる支援関連施策を立案しました。

【アンケート結果 回答数610人】

○小中学生の不安や悩み等の内容は学校や勉強のこと、友達のこと、相談相手は、家族や学校の先生から、中から、成長するにつれ友達や先輩等が増えました。相談方法は、学年が上がるにつれ、直接会話することからSNS等のメディアを活用した方法が増えました。

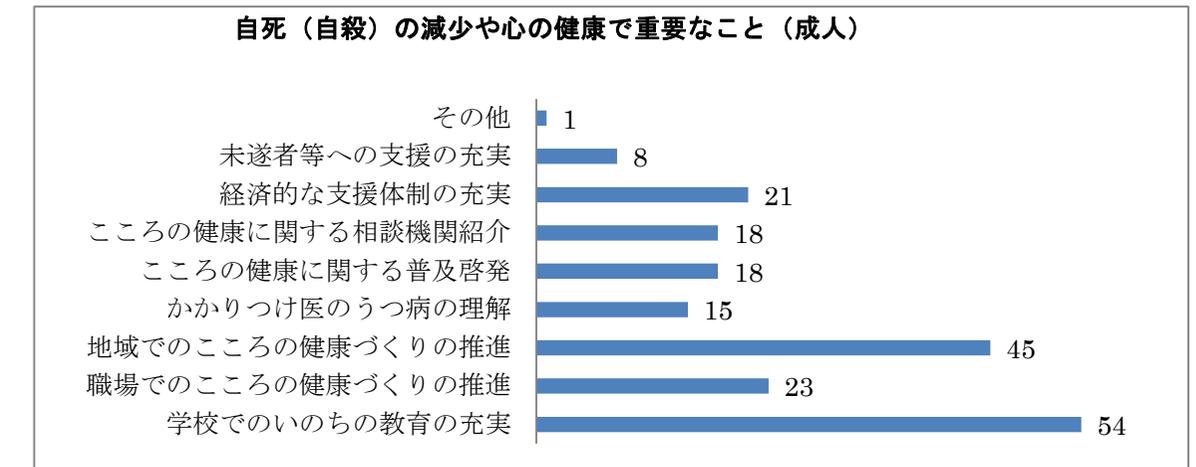
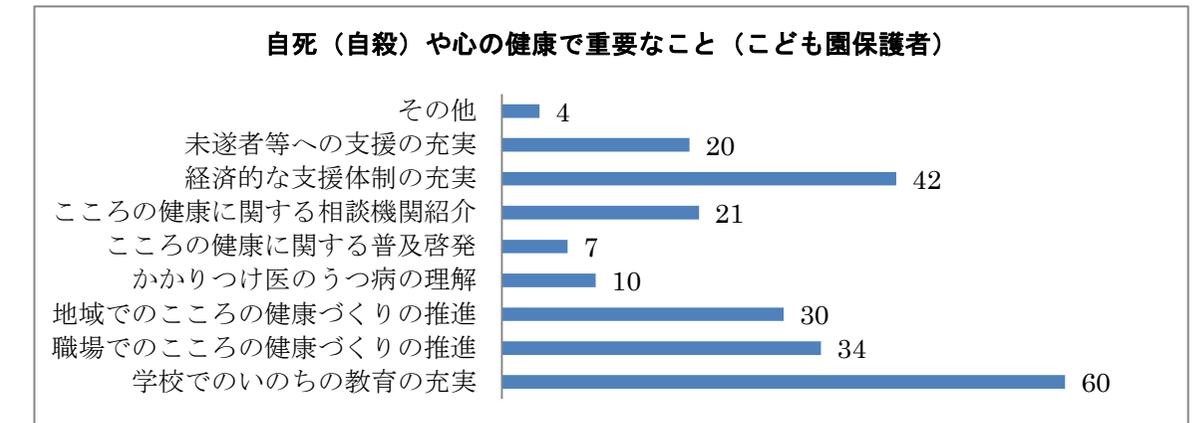
○小中学生が相談先にしてほしいこととして、気軽に相談できる、たくさん話を聞いてくれること等が高い割合でした。

○ストレス解消法がある小学生の割合は84.2%、中学生は91.7%、15歳～20歳は89.5%でした。解消方法として、各年代とも趣味や好きなことをして楽しくこと、ゆっくり休むことが上位でした。(1人あたり3つまで○をつける延件数)

○小中学生・若者の年代で半数近くが睡眠不足を感じており、理由として勉強、テレビ、ゲーム等でした。

○子ども園保護者や20～80代の世代で、自殺を考えたことがある方が数名おり、そのなかでも相談相手がいなかったと回答した方の割合が約半数でした。

○重要な施策として考えることとして、学校でのいのちの教育の充実、職場や地域でのこころの健康づくりの推進、経済的支援体制の充実が上位でした。



【アンケート結果からみえた町の課題】

- 子ども若者：発達段階に応じた心と身体の健康教育・多機関を含む様々な相談窓口の周知
教育部門と連携したSOSの出し方に関する教育・いのちの教育
- 全世代：心の健康づくりに関する情報提供・様々な相談窓口の普及啓発
関係機関と連携した経済的支援体制の充実・生きがいくりの促進

～大事ないのちを守る つなぐ ささえる浅川町～

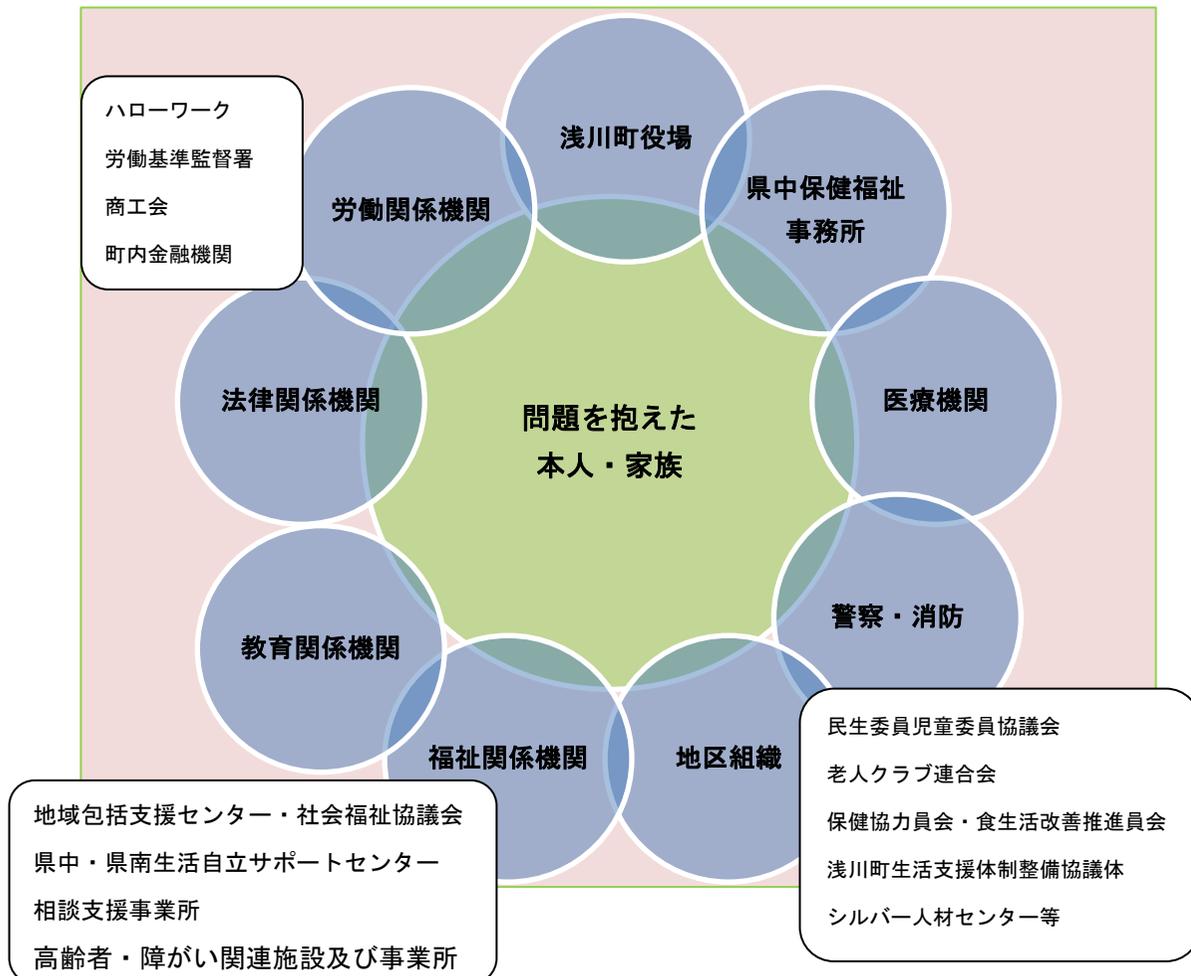
1. 5つの基本施策

- 地域におけるネットワーク強化
- 自殺対策を支える人材育成
- 町民への普及啓発
- 生きることの促進要因への支援
- 児童・生徒SOSの出し方教育に関する

現在の町で実施しているすべての事業が、より横断的取り組みとして体系化になるよう、関係機関や団体との連携・情報共有を強化していきます。

また、問題を抱えた本人・家族が地域で孤立しないよう、親族や友人をはじめ、直接的・間接的に、多職種・多機関で見守ります。

2. いのち支える関係組織団体体制



3. 重点施策

<p>高齢者 ～「心身」ともに元気ハツラツ 生きる地域づくり～</p>	<p>高齢者の心や身体機能の特性を踏まえ、地区のサロン、健康教室、各種健診、納税相談等の機会を活用し、関係機関で情報共有しながら支援していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○包括的支援のための推進 ○地域における要介護者・家族への支援 ○高齢者の健康不安に対する支援 ○社会参加の促進と孤立・孤独・ひきこもりの予防
<p>生活困窮者 ～「安心」できる みんなで つなぐ 地域づくり～</p>	<p>健康面や経済面など、様々な問題を抱えているハイリスク者に対し、健診や教室、生活困窮、年金や納税相談等を活用し、関係機関で協議・連動しながら自立へ向け支援していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多分野・多機関とのネットワークの構築と相談支援 ○生活困窮対策と自殺対策の連動を図る会議・研修会
<p>子ども・若者 ～共に「関心」もって 一人で悩まない地域づくり～</p>	<p>小中学生や青年期、その親世代に対し、切れ目のない誰かに相談できる、相談される相談支援と関係づくりを目指し教育分野をはじめ関係機関との連携、普及啓発、体制を整備していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いのちの教育・SOSの出し方に関する教育の推進 ○幼児期・学童・成人期まで一貫した相談支援の推進

4. 生きる支援関連施策

現在、各課で取り組んでいる事業を「生きる支援」に関連する・関連しうる事業として見直し、『生きるための包括的支援』の視点で、町民への普及啓発・周知に努め実施していきます。